2024年06月22日 中日新聞 朝刊 15頁

トルコと日本社会を考える

中部大で講演会 震災共感「距離越え会話」

外交関係樹立100周年

2023年にトルコで起きた地震の際の支援を語った遠山さん＝春日井市松本町の中部大で

トルコとの外交関係樹立100周年と、中部大国際関係学部創設40周年を記念した講演会「家族、女性、教育、価値観を軸に、トルコと日本社会を考える」が21日、同大で開かれた。

講演では同大の中山紀子教授や、交流があるトルコのチャナッカレ・オンセキズ・マルト大のトルガ・オズシェン教授らが登壇し、トルコ女性のスカーフの意味や日本の教育などについて語った。

中山ゼミナール出身で2015年卒業の遠山暁さんは、23年2月に発生したトルコ南部地震の支援活動を紹介した。トルコの国花チューリップの生産地としては日本有数の新潟県に住む遠山さんは、寄付以外にも誰でも気軽に参加でき、一緒に被災地に思いをはせる機会にしようと、新潟駅前にチューリップでトルコとシリアの国旗を表現した。小学校ではこのチューリップでハンカチ染め体験をしながらトルコのことを学ぶ授業があり、被災地へのメッセージを添えた。

遠山さんが友人の勧めるトルコの小学校に直接、ハンカチとメッセージを渡しに行くと、現地の子どもたちからもメッセージ動画が届いた。遠山さんはトルコと日本は地震が多く、震災の恐怖や痛みが共感できると指摘。自身の活動を通して「子どもたちの間には、あの花の力で言葉の違いや距離を越えた会話が成立した」と話した。

県には国内で2番目に多くトルコ人が住んでいるといい、この日は在名古屋トルコ共和国総領事館のダムラ・ギュミュシュカヤ総領事も訪れ、あいさつした。

（長谷川和華）